
MR.X

NEW
ADVANCE
MIND

VOL.-5

教材使用規約

本教材使用規約（以下「本規約」）には、株式会社エンライト（以下「当社」）が製作した教材及び商品について、あなたと当社間の契約条件が規定されています。

第1条 著作権

本教材の著作権は、当社にあります。教材の使用につきましては以下の事項をご確認下さい。教材、および収録されている全てのコンテンツは、購入・ダウンロードしたあなた自身のために役立てる用途に限定して提供しています。教材に含まれているコンテンツを、その一部でも著作権者の書面による許可なしに、複製や改変するなどして、また、あらゆるデータ蓄積手段により複製し、オークションやインターネット上だけでなく、転売、転載、配布などで一般に提供することを禁止しています。

第2条 違約金

上記の規定に反して、情報を公開した場合、お客様は当社に対し違約金として、違反件数と商品定価を乗じたものの10倍の金額を支払うものとします。

第3条 関連法の遵守

教材の使用にあたっては、著作権法、その他関連の法律を遵守するものとします。

第4条 責任の範囲

当社は、あなたがなされるノウハウにおける、安全性または適法性、有用性について、一切保証いたしておりません。したがって、あなたは、当社及びその代理人、従業員及び提携先等に、ノウハウの使用により派生するいかなるクレーム、請求、損害賠償もし得ないことに同意するものとします。また、期待した効果が得られないと感じられる場合も同様とします。

第5条 所轄裁判所

本契約に関する一切の紛争に関しては、当社が指定の地方裁判所を、第一審の専属管轄裁判所とします。

教材使用規約

もくじ

新アドバンスマインド 第5話 パート1

「人を進化させるコミュニケーション法」	5
---------------------	---

新アドバンスマインド 第5話 パート2

「ステータス・ゲーム」	42
「涙」	48
「女性が涙を流すとき＝最大のチャンス」	49
「泣く＝癒されてる」	50
「安心できる空間」	53
「ことばは、もういない」	56
「女性は悲しんでる」	60

もくじ

新アドバンスマインド 第5話 パート1

こんにちは。

——こんにちは。

新アドバンスマインド。第5話になります。

どんどん進んでいってるんですけど。非常に興味深くなっていて、僕もこの新アドバンスマインドを毎週やっているのが楽しみなんですけど。

どういうふうに、この新アドバンスマインドをつくっているのかという裏話を、興味があるかなと思って、話すんですけど。

一週間ずつ、話しますよね。それは僕がすべてマスターしていて、それを神のように話しているわけではないんですね、じつは。

僕がこれをしているのは、自分自身の感情っていうものをみつめて、こういう弱みがあって、こういう恐怖があって、こういう問題にぶち当たってて、どういうふうにしてこれを乗り越えていったらいいんだろうって、悩みながら、その解決法をみつけながら、それをテストしながら、女性に対して表現してみたり、自分に対してそれを分析してみたり、それを書き出してみたり、いろんなことをしながら、毎週毎週、僕自身が行っていることを話してるんですね。

だから、すごく僕自身が楽しいんですけど、この作業が。

自分自身が進化をしながら、それを分析して、それを公開する場所をもっているから、やっぱりちゃんと分析しなきゃダメだし、ちゃんと自分を乗り越えていかなきゃダメだっていう意味があって。

じつは、この新アドバンスマインドのプログラムをつくること自体、僕自身を成功回避不可能な状態にもっていく意図が含まれてるんですね。僕の感情を乗り越えるための。

ただ、みんなに何かを提供したいとか、ただ、商品売って金を儲けようとかっていう気持ちではなくて、どうにかして、自分がいまもっている恐怖やトラウマからきている変な現実であったり、女性に対してもっと深いビジョンをもっていきたいっていう。

どうしたら、それを達成できるかなって思って考えたら、やっぱり自分自身、もっと深く入らなきゃいけないし、自分自身の弱みをもっとみつめて、もっとそれを受け入れて、さらに感情の面でも進化していかなきゃいけない。

どうすれば、それを成功回避不可能な状況にできるんだろうって考えてたら、やっぱりこの新アドバンスマインドという、だれかに提供する場を定期的にもつことで、自分自身が真剣にやらなきゃいけなくなりますよね。

中途半端にやっていたら、話ができなくなりますから、みんなに話せる内容、提供できる内容にしていくには、自分自身が本当に毎日行っていないと、毎週毎週、間に合わなくなってしまう。

そういう意味で、これはみんなのモデルにしてもらいたいんですね、この僕のやり方を。すべて僕は、いままでもそうだったんですけど。

何かをマスターしたかったら、教える場をもつってことです、最初に。そうすることで、自分が学ばなきゃいけない状況になりますよね。それは成功回避不可能な状況にしているってことなんで。

何かをマスターしたい、何か課題があると思ったら、「だれかに教える場がないかな？」

しかも、最初にお金をもらって、最初に約束して「よし、これを完璧に全部、提供するよ」って、例えば、セミナーの集客をしてしまうとかね、先に。お金をもらってしまうとか。

もう、あとに戻れないですよ。

いつかしますよ、だったら忘れてしまうんですけど。お金ももらってしまった。責任がありますよね。

じゃあ、何月何日何曜日からスタートしますっていったら、ああもう、それまでに準備しなきゃいけない。

そこに進化がはじまるんですね。あとに引けないという。

そういう意味で僕は、うまくこれをつかっています。この成功回避不可能な状況を。

で、これを聞いて勘違いしてしまって、何でも成功回避不可能な状況にして、自分を追い込めばいいんだと思って、例えば、ビジネスで成功して億万長者になるぞって決めて、そのためには2億円の借金をして、絶対その2億円を返すためにがんばるって、ムチを打つような状況にして、借金をしまくろうという人が、たまに出てくると思うんですけど、それとは違います。そういうリスクではない。

何も準備せずにエベレストに登ろうとか。何とかして生きのびようとがんばるから、成功回避不可能な状況になるだろう、何とかなるだろうって、そういうことじゃないです。

例えば、新アドバンスマインドを公開しますって約束して、お金をもらって、もし僕が失敗して、何もできなかったとしても死にはしないですよ。お金を返せばいいことになる。

お金を返せばいいって話じゃないですけど、最悪、返金することもできるし、何らかのお返しができて、深いダメージにならないってことです。

だから、成功回避不可能な状況にするときに、ぜひ僕のような、このモデルをつかってほしいんです。このようなセミナーをやるとか。

自分の課題をみんなに伝えていく場をもってほしい。

ただし、失敗したときのダメージやリスクが大きすぎることはしないほうがいい。

自分の中の精神的なプレッシャーがある程度ある、それがちょうどいいもので

あれば、もしもの時も、死にはしない。それほど深いダメージは受けないって
いう状況ですむと思うんで。そこまで大きなダメージを受けるようなことは、
してほしくないってことです。

そういう意味でバランスを取りながら、自分を追い込んでいって、モデリング
してください。

だからこの新アドバンスマインドも、毎週毎週、僕は自分をみながら、つくり
ながら、そして、それを提供しているんです。

ただ自分を分析しているだけだと、「ああそうか、俺は嫉妬深いんだ……」で
終わってしまうところが、「嫉妬とは何だろう」「ああそれを公開しなきゃダメ
だな」「嫉妬をみつめて……そうか感情っていうものか」って、自分で深く入
っていけるんです、さらに。

しかもそれを話さなきゃいけないから、もっと深く入らなきゃいけない状況に
なってる。それを実際に話すから、さらに自分が話しながら、もっと深く学ん
でいくっていうプロセスです。

ホントにいま、すばらしい進化を僕は感じています。感情の面とか、女性に対
する面で。

だから、これを聴きながら、みんなもそういう……「ああ、Mr. X もこれを完
全にマスターして、これを教えてやるぜみたいな感じで教えてるんじゃないん
だ」「じつは毎週毎週、これを実践しながら、覚えながら、実感しながら、進
化しながら、それを話してるんだ」「それを話している最中も進化しているんだ」
っていう気持ちで聴けたら、興味深いかなと思うんです。話を聴くときの視点
として。

そういうふうな感じで、聴いてください。

これがセミナーの裏側です。

新アドバンスマインド、第5話。今日は、ちょっと特別な日で、ケーススタデ
ィです。

第4話で宿題が最後に出たと思うんですけど、そこで人の問題点を……例えば、人が抱えているチャレンジであったり問題点を解決してあげて、しかも相手が、自分自身で自分を進化させるような話の仕方、話の聴き方っていうのを最後に教えたんですけど。

今回はそれを実際に実践してみて、みんなのチャレンジであったり、悩みをその場で解決……かならず解決につながるってわけではないですけど。何らかの気づきがおきるようなことを実際にしてみようと思います。

何でこういうことをするかというと、実際にこの宿題をやったり、これからやろうとしている人に、僕が実際に見せてあげないと、どういうふうにやるかとか、マネができないと思うんです、何らかのモデルがないと。

ただ宿題をやれっていわれても、これであってるのかなとか、こういうやり方でいいのかなとか、Mr. Xはどういうふうにやっているのかなという疑問が出てくると思うんで。

今回の第5話は、そこに特化して、ケーススタディみたいな感じで、実際にどういうふうに女性に対して、男性に対して、周りの人間に対して、コミュニケーションをとっていて、しかも相手の問題も同時に解決できるような状況にしていて、しかも相手がそれで進化できるように、自分自身で進化できるようになる話し方をデモンストレーションしようと思います。

そして最後に少し、また新アドバンスマインドのノウハウが出てきます。8割はデモンストレーションになります。

それでは、書いてください。

「人を進化させるコミュニケーション法」と、書いてください。

「人を進化させるコミュニケーション法」

第4話を最後まで聴いた人は、このステップを具体的に覚えていると思うんで

人を進化させるコミュニケーション法

すけど。

人を進化させるコミュニケーション法が、ステップ・バイ・ステップでありましたよね。

どういうステップかというと、

[ステップ1]

何が起こったのかを訊く。どうしたの？ 何が起こったの？ まず具体的に、どういう状況になったのかを訊く。

[ステップ2]

どういう感情をもっているのか、もしくは、もっていたのか。過去形であれば、どういう感情だったの？ もし現在進行形で、その問題に直面している人と話している場合は、どういう感情なの？ 感情を聞き出してあげる。

[ステップ3]

何を学んだかを訊く。何を学んだ？ すべての問題点、すべての何らかのチャレンジには、かならず学ぶことが入ってるんですね。それを自分で見つけさせるってことです。何を学んだ？ 今回の状況から。

[ステップ4]

自分について何を学んだ？ あなた自分自身、何を学んだ？って、訊いてあげる。そうすることで、自分自身を見つめさせるってことですね。ああ、俺はこういう癖があったんだとか。こういうわるい癖があったんだっていう。自分自身について何を学んだかを訊く。

[ステップ5]

これから、どういうふうにして、今回の教訓を生かして、同じような問題が起きないようにするとか、もっと向上させることができるのかってことを訊く。この教訓を生かして、これから、どういうふうにいきますかってことを最後に訊く。

言い方とか、話し方は、人それぞれちがうですけど、ポイントはこの5つのステップなんですね。

何が起きましたか、その状況をおしえてくださいって、ロボットのように訊くって意味ではないですよ。無機質に「状況を教えろ……」とかね。ステップ2で「感情を述べよ」とか。

そういう言い方をするってことじゃないです。ポイントはこういうことを聞き出すってことで、話し方、言い方、ことばの選び方は自分で決めてもいい。

ただこのポイントで、この5つのステップをつかって話をすると、相手はその状況をもう一度見直すことができ、しかも感情の波をきれいに、はき出すことができ、それを見て、受け入れることができ、そして、そこから学んだことを自分で見つけて、自分について学んだことも、そこから見つけて。

最後に、この教訓を生かして、どういうふうにしていくかっていう、これからの未来についても自分の反省点とか、いろんなことを見つめさせる。

このステップをつかうだけで、自分自身で……あなたは何もアドバイスしていませんよね。こうしたほうがいいよとか、お前はダメな奴だとか、これからは、こうしろよとか、何もアドバイスしていません。ただあなたは、訊いているだけなんです。質問しているだけです。

それだけで相手は、女性であったり、男性であったり、チームメンバーであったり、友人であったり、周りの人すべてが、自分自身で解決法を見つけて、自分自身で進化して、そしてあなたに感謝するんですね。

とくに〇〇さんとかには、よくこの話を聴いてほしいんですけど。なぜかっていうとコンサルタントとして、周りの人たちの悩みを聞く機会が多いと思うんですね。

その時に、何か相手の答えを出してあげなきゃいけないとか、何かアイデアを出してあげなきゃいけないとか、これからこういうふうにしていったらいいよと、アドバイスをしなきゃいけないとか、そういうプレッシャーってないです？ 〇〇さん。

——あります。

あるから、人が話している最中でも、「何て言おうかな」って、考えてたことってないです？

——あります。

話を聞きながら、自分が、ちゃんとすごいことを言わなきゃと思っているから、相手の話がどんどん聞こえなくなってきましたん？

——そうなんですよ、はい。

そこが自分自身の恐怖とか、自分自身のエゴになっちゃうんですね。

答えなきゃいけない。何かいいこと言わなきゃいけないっていう感情で聞きはじめると、相手の気持ちから、どんどん離れていってしまう。

最終的に相手は、「いいことを言ってくれてるんだけど、何か俺のことをぜんぜん聴いてくれてないな」というふうに思われて、彼も進化できないし、あなたもコンサルタントとして失格になってしまう。

なので、この5つのステップをつかって……何も言うことはないんです。ただ、状況を把握させて、感情を訊いて、学んだことを訊いて、自分自身の反省も訊いて、これからどうすればいいんだってことを訊く。

自分自身で、すべて進化しますよね。そして彼らは……コンサルタントとしてやった場合は……あなたにコンサル料を払うんです、これで。

女性が問題点を抱えているときにこれをやったら、女性はあなたに感謝して、あなたに深い愛を感じるんですね。

友人にこれをやると、友人は深い友情をもつんです、あなたに対して。

人を進化させるコミュニケーション法なんです、これは。

それを今回、実際にやってみようと思います。これは僕自身、まだ完璧にマスターできているとはいえませんが。

数年前から意識して、こういうコミュニケーション法をできるだけ、つかおうとしてやってきたんですけど。

こうしろ、こうしろ、というより、相手の状況を訊いて、どういうことをしたいのとか、これからどういうふうにしていきたいんですかとか、とにかく訊く。

相手はつねに、その答えをもってるんですね。ただそれを出してくれる人がいないから困っている。

だから僕が何かをするときにも、とにかくそれを出してあげたいっていう気持ちでやって。それを意識してやってたんですね。

なので、完璧ではないですけど、練習はしてるっていうコミュニケーション法です。それをやってみましょう。

で、〇〇さんは、女性との間で、いろんな問題とか、チャレンジとか、悩みとか、しこりとか、あると思うんですけど。具体的に何かそういうことってありました？ とくに覚えている最近の話で。

——いくつかあるんですけど。一番昔から抱えていることは、つきあいが長くなるとセックスをしなくなってしまうんですよね。嫌いになるわけではないんです。むしろ、どんどん仲良くなって家族のような感じになるんですけど、セックスをしたくなくなってしまうっていうのがあるんですね。

セックスをしたくなくなる。

——はい。

例えば、それを思い出してみても、何かそれで問題があったときってありますか？

「やってよ」とか、いわれて、「いやあ、ちょっと俺は」みたいな。そういうときってあったんですか？

それを気にしてるってことは、何かあったんですよね。

例えば、何もなかったら、セックスしたくなっていることさえも気づかずに過ごしてると思うんですね。

——そうですね。

何かそれを気にするような状況があるんですか？

——えっと、その結果、セックスはしたいので、他の人としようとするんですけど。でも、家では、しようとしないうという時とかがそうですね。

ああ。それで、何か言われるんですか？

——家でですか？

うん。

——そうですね。あんまりしないみたいな話がありますね。

ああ、それをちょっと気にしてる、〇〇さんは。

——気にしてます、はい。

うーん、なぜ？

——本当は、ずっと、まあ、毎日までとはいかないまでも、週に一回とかやっぱり、できつづける関係でいられたらいいというのはあるんです。

ああ、ホントはもっと性的魅力を感じていたい、彼女に対して。感じたいんですか？

——はい。感じたいです。

でも、それを感じるができないから、何かいやだ。

——そうですね、それで外の女性と、そういうことをするので、何かそっちの

子のほうが好きになりそうになったりして、何か自分が求めているかたちに近くなっていくというか……

いままでのパターンで、外で女性をつくった際に、まあ、関係をもっていて、その外にもった女の子に対しても、長くつづけば、それも飽きてくるって感じですか？　どんどん。

——ああ、それはあります、はい。

じゃあ、それは、いまいるパートナーの女性だけではなくて、すべての女性に対して、そういう結果になってしまうんですか？　つねに。

——そうですね。

そっか。で、現在とくにそれが自分の中で、もやもやしている。

——そうですね。いま、とくについていうわけでもないんですけど、昔からずっとですね。

例えば、僕の言いたいことは、白髪がたくさんある人っていますよね。で、問題点は何ですかって言われて、「僕は白髪がたくさんあるんです」って言う人とおなじ量の白髪をもってても、問題は何ですかって言われたら、「うーん、問題は、肌がスベスベじゃないんですよ」っていう人もいます。

わかりますか。おなじ状況なのに、それを問題点として見る人と、ちがうことに問題点をさがす人がいる。

ああ僕は白髪が多いなって思う人と、白髪、えっ、あった？　そういえば多いのかなみたいな人っているんですね。

だから、〇〇さんが、そこで女性に対して飽きてしまう、つづかない、なぜだろう。いまのパートナーとも、もっとすればいいのに、うーんって、悩んでいるっていうのは、何かそこにあるんですね。

——ああ。

だからそれに対して、〇〇さんとおなじ状況なのに、それを悩んでいない人っていうのは、たくさんいると思うんです、世の中には。

そこにあまり意識がないっていうのかな。

だから、そこに意識があるのは、なぜなのかなってことを聴きたいんですけど、〇〇さんの。もっとこう、くわしく聴きたいんですけど。

——ああ。

何かこう、怖いですか？ セックスレス・カップルになるのが怖いですか？

——たぶんいまのお話を聴いていて思ったのが、ひとつ、やっぱり怖がっているのは、いまの家庭が崩れてしまうのが怖いし、めんどくさいし、それが仕事にも影響を及ぼすしっていう、そっちのほうに怖いのかもしれないです。

セックスレスになる＝家庭崩壊、仕事に影響、めんどくさい、離婚っていうふうな、方程式ができてるんですか？ 〇〇さんの中で。

——そうですね。

セックスはしない＝愛がない、って思います？

——それは、あまり思わないかもしれないですね。

セックスをしないことで、どうして問題が起こると感じてしまうんです？

——結局、何か他の人のほうに、一瞬その気持ちに移ってしまったりして。で、そこで例えば、ちがう女の子とメールのやりとりをしたりとか、デートを密かにして、それがバレて家庭が崩壊するみたいな。そういう怖さは、かなりあります。

そっか。相手に対する恐怖ってありますか？ 相手が、他の男をつくるかなっていうのは。〇〇さんのパートナーがね。例えば性的欲求不満になってしまって、

他の男性とやるんじゃないかとかって、そういう怖さって、じつはありますか？

——じつはあります。というのも普段そういう怖さは、ないつもりなんですけど、向こうがそういうことを言った瞬間に、アレッて、ちょっと嫉妬の気持ちが出てきたりするので、たぶんホントはあるんだと思います。

うーん。どっちが強いと思います？ 自分が他の女性に目移りして、それがバレたらやばいなっていう気持ちと、その女性が他の男性のほうにいて関係をもってしまうほうが嫌っているの、どっちのほうが強いんです？ その気持ちは。ホントは。

——いま現在では、自分のほうの気持ちなんですけど、実際にでも、相手にそういう素振りが出てきたら、逆転するかもしれないっていう感じです。

そうか。じゃあ、ながく付き合えば女性に対しては、性的魅力を感じなくなっていく話なんですけど。性的に魅力を感じなくなると、それ以外にも何らかの魅力を感じなくなっているってあります？ 自分の心の中に。

例えば、性的魅力を感じなくても、おなじように大好き同士で、おなじように付き合ってるカップルっているじゃないですか。

ただ、〇〇さんの場合は、性的魅力がすべてに影響して、それがなくなると会話も減って、デートの回数も減って、抱きしめる回数も減ってとか、そういうことってあります？ 〇〇さんの現実をみたいんですけど、いま。

——ああ、そうですね。そういうのはないと、なかったんですけど、他にちょっと好きな子ができると……これは別の問題かもしれないんですけど……愛情のパワーが半分になるっていうようなイメージがちょっとあって。そうですね。どっちだろう。

——性的魅力がないことに関して、他の影響は、他の部分で魅力を感じなくなるっていうのは、ないと思います。

うん、それはない。

——ないと思います、はい。

ただ、他の女性のほうに性的魅力を感じてしまうから、それが何らかの、いまいるパートナーの……いまさっき話を聴いていてことばが出たのは、めんどくさいっていうのがありますよね。それがバレたときに。

で、バレたときに、例えば、傷つけるのがいやだっていう気持ちより、めんどくさいっていう気持ちが出たんですよね。

何らかの彼女に対する気持ちの変化とかって、あるんですか？ ○○さんは、パートナーに対して。気持ちの変化は、以前にくらべて。

——いま現在ですか？

性的魅力を感じていた時期とくらべて、いまは例えば、彼女のことをあまり好きじゃないなとか、そういうのって、あるんですか？ 何か。

——うーん、ちょっとわからないな。どうですかね。

これは興味深いですよ、ホントに。これは、どんどん僕が質問してあげないと、○○さん自身が引き出せないから僕も一生懸命、質問してるんですけど。

こう引き出して、引き出してしてくるとホントの部分が見えてくると思うんですね、コアなポイントが。

セックスレスになることに、怖さを感じてるんじゃないくて、自分の気持ちが彼女から離れてしまっ、離婚したくなってしまうっていう状況が怖いと思います？ どうです？

——うーん、そうですね。

いま○○さんがもってる女性関係のモデルって、どんなモデルです？ 神話があります？

——神話ですか。

うん。絶対、結婚生活はうまくいかない、とかね。男は浮気してバレて、そして離婚につながるとか、慰謝料を請求されるとか。何か自分の中であると思うんです。そういういろんな現実が。

——ああ、あります。

どういうストーリーが思い浮かびます。何だかんだいいながら自分の人生って、こうなるんじゃないかなとかね。こうなったらいやだなーっていうストーリーはありますか？

——うーん、ありますね。浮気がバレて……浮気がバレてというより、自分が他の人を好きになって、そして離婚をしたくなってしまうんじゃないかっていう。

そして、どうなります？

——そして、会社もヤバくなって、かなりめんどくさいことがたくさん起きて、不幸になるんじゃないかっていう。

そうなりますよ、〇〇さんは。確実に。

——そうなりますか（笑）。

うん。いまのままで、この現実で生きたら、確実にそうなります。

——ああ。

未来を僕は見ることはできないですけど、これは未来を見ることができるんですね。

現在の現実のままで生きたら、〇〇さんはこのまま結婚生活をつづけながら、だれか他の人が気になって、その女性を好きになって、そして離婚したいなと思いはじめて、めんどくさいなと思いつつ、そしていつか、何らかのきっかけで奥さんにバレて。

で、奥さんとキャーってなって、めんどくさいことになって、そして離婚するしないの話になって、慰謝料の問題になって、会社にも影響してみんなが迷惑を被って、何かもう、どうしようもないようなことになって、ああどうしようかなって悩む……そういう人生に、なりますよ。確実に 100%。いまこれから、10 年、15 年以内に。

そう。そういう現実をもってるからね、〇〇さんが。

——うん。

そう。そうなるんです。これはホントに不思議な話ですけど。

で、いやなんですよ？ それは。

——それはいやですね。

かなりいやなんですよ。

——いやです。

だから、今回の新アドバンスマインドで、それを変えないとダメだと思う。今回ホントにそれを塗りかえないといけないと思う。

——はい。

すばらしい作業になると思うんですけど。

何らかの影響、刷り込みがあったと思うんですよ。〇〇さんの中に。

どういうふうに、そのイメージが作りあげられました？ 女性と結婚、他の人に目移り、浮気バレル、家庭崩壊、問題、不幸って、その話の流れは、どこで聞きました最初に？

——どこですかね、一番最初に……何かすごくあるようなパターンなので。

すごく、ありますかね (笑)。そんなに聞いたことはないんですけど、僕は。

すごくあるって思うのは、それが目につくからですよね、〇〇さんが。

——ああ。

そう。やっぱりそれが目についているから、すごくあるっていうふうに、みえるだけだと思うんですけど。

——うん。

僕にとっては、よくある話では、あまりないんですね。たまにそういうのは聞くけどみたいな。

——ああ。

だから、ちょっと僕は、またちがう現実をもってたから。さらにひどいっていったら、おかしいけど。ちょっとおかしい現実をもってたから、僕の中では。

どっかの刷り込みがある。

〇〇さんの、お父さんとお母さんはどうです？ そんな感じはありました？ いままで。

——ありましたね、はい。

たぶん、それでしょうね。

——離婚はしなかったですけどね。

めんどくさいことが起きてました？ 家庭内に。

——その時は、何でこんなに離婚とか言ってるのか、わからなかったんですけど。高校生のときに親父に言われたんですね。そのことがあって、みたいな。他にちょっと遊んでいる人がいて、ずいぶん母さんには迷惑かけたん

だよ、みたいな話をされたことがあって。

それでしょうね、おそらく。

——うん。

で、子どものときによくわからないっていう状況でも、子どもってわかってる、僕たちって感じてるんですよ、すべての感情を。

それを論理では説明できないですけど、すべてストーリーの中に組み込まれてるんですよ、その要素が。

——うん。

あ、そうか、人生ってこんなもんなんだ、みたいなね。

人生は、これなんだみたいな。

だから、たぶんそこから、ご両親の影響があると思うんですけど。

僕の中ではね、逆にいうと、またちがうケースだったから、浮気がバレて離婚騒動になってめんどくさい状況なるっていう……そういうのは、みたことがないからね、幼少期から。

だから、そういう恐れはないっていう。またちがう恐れなんですけどね、僕の場合は。

ちょっと、新しい現実をかいま見たいですか？ ○○さんは。

——はい。

いろんなパターンがあるっていうことを。

で、○○さんの中では、おそらく子どものとき、10代のとき、ああ、お父さんとお母さん、ケンカしてるな、離婚離婚って言ってるな、何でかな、ああそ

うか、他の女性ができて、迷惑をかけて、めんどくさくなったんだ、そうか、そういうものなんだっていうストーリーが入ってると思うんですけど。

それで人生は、そういうものなんだっていうものが出来上がってると思うんですね。

で、ちょっとここで、新しい現実を紹介したいんですけど。かいま見せたいんですけど。

じゃあ、僕の現実をちょっと見せますね。いまの現実を。

僕がいま生きてる現実、女性に出会って、恋人に出会って、僕はたくさんの子供がほしいし、たくさん女性と関係をもって……たくさん女性と関係をもつっていうより、たくさん女性に子供をもってもらって、何か守りたいっていう気持ちが、すごい強いんですね、僕は女性たちを。

まあ、単純に言えば一夫多妻制みたいな感じになるんですけどね。その現実があるんですよ、僕の中には。

だから、一人の女性を好きになる。で、その一人の女性を好きになったら、その女性は永遠に僕は好きになるんですね。死ぬまで愛してるんです。

セックスの回数は、減るか増えるかわからない。でもそれは、ぜんぜん問題点じゃないですねそれは。セックスの数が増えるか減るかなんて。

ただ僕は彼女をどんなかたちであれ、安心させてあげて、守ってあげて、愛してあげて、幸せにしてあげるっていう。好きになった女性はね。そうするって決めている。

で、またつぎの他の女性を好きになったときは、その人もそうしてあげる。

つぎの人になったら、またその人にも、そうしてあげるって、どんどん、愛する人を増やしていくという作業。で、セックスの数は関係ない。

もしかしたら、出会ってから一回もセックスをしない関係もありかもしれない。

何でもいいんです、それは。

ただ、だれかを好きになって、守ってあげたい。

守ってあげたい、愛してあげたい、安心させてあげたい、幸せにしてあげたいという気持ち。そんな女性をたくさんもちたいって思ってるんですね。

だから、いま恋人がいるんですけど、その女性に僕がつねに話していることは、今後も僕は、どんどんいろんな女性を愛して行って、たくさんの奥さんをもつ人生を歩むんだよって、僕は言うんですね、その女性に。

で、女性はすごくそれに対して「えっ、なんで？」って言うんですね。「いやだ、私ひとりを愛してよ」みたいなね。まあ、嫉妬ですよ、女性の。

いや、そんなに心配しなくてもいいよって。俺はお前をずっと最後まで永遠に愛しつづけるから。だから心配しないでいいよって、僕は言うんですね、彼女に対して。

「いやでも、他の女性も……たぶん、若い子をみつけて、その子のことも好きになるっていう意味でしょ」って、言われて、うん、そうだよって。でも、俺はお前をずっと愛するよって。だから、問題はないでしょって、僕は言うんですね。

う～んって、なるんですけど、でもそれを僕が正直に伝えていくと、いま現状、その女性は、それでもいいって、なってるんですよ。わかったって。

ホントにあなたといたら、安心できるし、幸せを感じるし、守ってくれる。うれしい。女としてうれしい。あなたと出会えて、うれしい。だから、もしあなたが他の女性にも、そうしてあげたい、もっといろんな、たくさんの女性にそうしてあげたいという気持ちがあるんだったら、それは受け入れることができるって、言ってくれるんですね、いまその女性は。

だから、〇〇さんにこの現実をちょっとシェアしたいと思って言うんですけど。

ひとりの女性と結婚して、その人に対する性的魅力を失っていくと、他の女性

とこっそり隠れて関係をもたなきゃいけない。そしてそれが、いつかバレて問題が起きるっていう形式に、ならなくても僕はいいと思うんですね。

そういう現実をもたなくてもいいんです。

性的な魅力が半減しても、ゼロになっても、それは関係ないと思うんですよね。

ただ、その人をトータルで、いろんな面で愛してあげて、幸せにして、安心させてあげて、守ってあげたらいいし。

で、他の女性が好きになったら、その人にも、おなじようなことをしてあげたらいい。そしてそれを隠す必要もないと思います、僕はもう。

僕はいままで、ずっと隠してきたんですね、そういうことを。だから、問題がいろいろあったんですけど、家庭でね。

でもいまはその家庭から離れて、またちがう女性と出会って、その女性に対して僕は最初からそういう新しい現実で挑んでるから、うまくいってるんですけど。

いままでの家庭では……まあ、家出中ですけど現在……それを隠してきた。だから、〇〇さんの気持ちは、すごくわかるんですね。その、う〜んっていう気持ちがわかるんですね。

でも僕は、新しい現実をもって、その現実ではじめた関係っていうのは、すごくいまスムーズなんですね。

だから、〇〇さんに伝えたいことは、その現実じゃなくてもいいってことなんです、じつは。

〇〇さんが、そのパートナーに対して、奥さんに対して性的魅力を感じなくなってるってことは、問題じゃないと思うんですよ。

愛してます？ 彼女のことを、そのパートナーのことを。

——愛してます。

ですよね。性的魅力を感じない、ちょっと最近やりたいなっていう回数が減ってきてる、でもいいじゃないですか。

——うん。

じつは、問題がないですよ、そこに。わかりますか。

抱きしめてあげたらいいだけかもしれない、女性に対しては。

べつに挿入をしなくても、いいかもしれない。

抱きしめてあげて、手を握ってあげたらいいと思うんですね。強いアイコンタクトがあって、深いスキンシップがあって、あなたの精神が、その場にちゃんとあれば、セックスは必要ないと思う。

まあ、僕の現実ですけどね、これは。シェアしてるだけですけど。

愛＝セックス、じゃないと思うんですね。だから、セックスがなくてもいいと思う。ただ、他にセックスしたくなった人がいれば、それもいいと思う。

で、奥さんに対して……ホントこれは、アクション・ステップになっちゃうんですけど。これをやれって僕のアドバイスになっちゃうんですけど、〇〇さんに対しては。

言ったほうがいいと思う。それを奥さんに対して。

怖いんです？ それを正直に言うのは。

——うん、すごい怖いです。

怖いですよね。僕もまだ言えてないから。人のことなんで、勝手なことってるんですけど。以前の女性に対しては、まだ言えてない。それはいつか言わなきゃいけないと思ってるんですけど。

僕は現在の女性に対しては、それを言ったんですね、怖いけど。

すると、まあ、ギャーってなりましたけどね一応、女だから。

だけど、感情の波に乗って、それを深く聴いてあげて、ちゃんと自分を正直に伝えて、いまは理解っていう状況になってますから。

おそらく唯一の、現実を変えるきっかけになることは、言うことだと思います、それを〇〇さんが奥さんに対して。

どうです、言えそうです？ 俺はじつは、複数の女性に対して、性的魅力を感じてしまうんだって、言えます？

——うーん。

かなり、怖いですか？

——かなり、かなりハードルが高いですね。

他の女性には興味がないっていう振りをしてます？

——奥さんにだけは、してますね。

(笑)。

——他の人には全部、結婚もしてるって言うし、ナンパもしてるって全部言うんですけど……

うん。なぜか奥さんにだけは、それができない。

——はい。

うん。そう。僕もそうなんですけどね、じつは (笑)。だから、よくわかるんですけど。なぜでしょう。

でも、僕もそれをいつか言わなきゃいけないと思ってるんですね、ホントに。それが、今年中になるか、来年になるか、わからないですけど。

そうしたときに自分自身がかなり、新たな現実、ホントに入り込めると思うんですけど。

おそらく〇〇さんが悩んでる問題っていうのは、自分に正直になれてないところだと思うんですね。

——うん。

他の女性に対して、性的魅力を感じてしまうっていうことを奥さんに言うことができて。ちゃんと正直にシェアすることができて、しかも、相手がそれに対してギャーとなっても、それを同時に包み込んであげるような男になったときに、問題じゃなくなると思うんですね。

そうすると、奥さんと一緒にいて、もっとどんどん楽しくなるだろうし、他の女性と性行為をすることも、もっと楽しくなると思う。

僕は、ありだと思うんですね。他の女性とたくさん性行為をもつてことは。その一人ひとりの女性をちゃんと愛していて、安心させてあげて、守ってあげて、幸せにしてあげてるんだったら、その女性が何人いても、いいと僕は思うんです。

ビジネスに話を置きかえてみると、例えば、〇〇さんと〇〇さんが、ビジネスのパートナーとしてやってますよね。

で、ある日、他の人から、私ともパートナーになりましょうよって話が来て、〇〇さんが、ああ、この人はすごくいい人だな、パートナーになろうかなと思って、その人と、こっそりビジネス・パートナーになったとします。

〇〇さんに言ったら、傷つくかなと思って言わなかったとしますよね。

それでこっそり活動をしていて、いつかバレたらケンカになるかな、嫌われるかあ、傷つくかなと思ってびくびくしながら暮らしているようなものですよ。

そして、いつかバレて、〇〇さんは俺のことを嫌って、めんどくさいことになって、いまあるビジネスも終わって、離れて行って、不幸になってしまうっていう。

要するにそういう感じですね。女性と男性をちょっと入れかえてみると。

——うん、そうですね。

でも、考え方を少し変えてみると、あっ、パートナーは何人いてもいいんだ、そうか。いや、〇〇さん、じつはね、他にすごく興味深い人がいて、パートナーになりたい人がいるんだけど。俺ちょっとやってみようと思うよって言って。

えー、〇〇さん、さみしいな。俺のことを相手してくれよって、〇〇さんが言ったとしますね。

ああ、大丈夫だよ。〇〇さんは、生涯のパートナーだから。もうこの際だから、3人でやってみるとかね。そういう話にも発展して、3Pになるかもしれない。

そういう話になるかもしれないでしょ？

——うん。そっちのほうが自然ですね。

自然。だから、男性とかビジネスに置きかえると自然なんです、それが。で、おかしくないですね、それでも。あっそうか、そうだねって。

〇〇さん、でも俺にもかまってよって言ったら、もちろんだよ、かわいいとか言ってね。まあ、男同士だからそんなこと言わないと思うんですけど。まあ、話がそんな感じになってね、スムーズになると思うんですけど。

それをこっそり隠したら、おかしいですね。

——うん、おかしいと思いますね。

何か気持ちわるいですよね。

——うん。

絶対、終わりますよね関係も、気持ちわるいから。

そう、だからそれとおなじだと思うんですね、女性関係も。で、それは現実だと思う、ホントに。僕もそういう現実だからわかるんですけど、女性に対しては。

僕は、何でそれを言うのを恐れているかというところ……いま自分をみていて気づいたんですけど……相手におなじことを言われたら、かなりショックだなと僕は思ったんですね。

例えば、僕が、他の女性も好きになって性行為をもつかもしれないけど、お前を愛しつづけるからなって言ったときに、その女性が「そうなんだ。じゃあ、私も他の男性とHしまくるけど、あなたも愛しつづけるわよ」って、言われたとしたら、すごいいやなんですね、僕は。嫉妬心が強いから。

だから、いやだなあって思ってしまう。だから言えない。だからいい子ぶって「お前だけだよ」って言って、で、向こうもじゃあ「あなただけよ」って言うてくれる。で、「ああ、安心」っていう。

そういう気持ちがあったんですね、僕の中には、いま気づいたんですけど。

だから、じつは彼女に怒られるとかが怖いじゃなくて、おなじことをされるのが怖かったんですね。

いま現在も、おなじことをされたいやなんですけど、でも、自分の嫉妬っていう感情に対して、すごく向き合ってた、嫉妬を感じる自分が怖くなくなったんですね。

……まあ、まだちょっと怖いんですけど。だんだん怖くなくなってきたんですね。だから、正直に言ってもし相手が、「じゃあ、私も他の男とHするけど、あなたを愛しつづけるわ」って言われても、「ああ、嫉妬を感じる」って思うけど、怖くはないんですね、あまり。

だから、自分も正直に言おうと思える自分になったっていうのかな。まあ、要

するに自分の問題なんですけどね、すべてが。

〇〇さんも、もしかしたら、そういう、奥さんに怒られるのが怖いとか、嫌われたらいやだなんていう以前に、何かもっとそういう恐怖があるんじゃないですかね、それを言うことに対して何かが発生することで。

——そうですね。奥さんがちがう人としているっていうのを受け入れて、そのままふつうでいられて、自分の愛情が変わらない自信がないです。

うんうん。でもそれはいいじゃないですか。お互い正直になったから。それでもし、奥さんがそれを聞いて、「私も他の人とHしてるのよ」って言われて、ああそうなんだ、かなり俺も嫉妬を感じて……ああ、第4話は、まだ聴いてないと思うんで〇〇さんは、感情の波に乗るっていう作業がわからないですね、まだ。

ぜひ、あとで聴いてほしいんですけど。そのね、嫉妬が生まれて、ああ俺はいま嫉妬を感じている、ああ～、すごいいま嫉妬を感じているって、それを表現して、奥さんとシェアしてね。

そのときに、いや、やっぱりもう別れたほうがいいよって話になったなら、それはいいじゃないですか。お互い正直に言いあえるんだから。

押し殺して、隠して、こうなったらいやだなんて思いつつ過ごすより、お互いに話しあって、私も男の人とHするわよって、ああそうか、じゃあ、やっぱりそれは別れたほうがいい状況だねって言ったら、スムーズに別れられますよね、お互いにとって。

だから、何かあると思うんですね。言えない理由っていうのが。

僕が言えない理由は、相手におなじことをされたら、自分がショックだからなんですけど。

例えば、男性のビジネス・パートナーに、俺は他のパートナーがいるんだよって言うのが怖い場合は、じつは相手に、他のビジネス・パートナーをもたれたら怖いっていう自分の恐怖があるから、自分がそれをしたら、相手もそれをす

るんじゃないかっていう気持ちがあるっていうのかな。

何か自分の中に、恐怖の根源っていうものがあると思うんですよ。

なんだと思います？ ○○さんの恐怖の根源は。本当の根源は。

他の女性とHをしたくなってしまう。でも、お前を愛してるよって言うとしたらね。

今日、家に帰って言うとしたら、怖いんです？

——怖いですね。

どういう状況がもっとも怖いです？ どういう状況に発展するのが。

——一番怖いのが、まずそこでたぶんギャーっとなって怒り出して。で、まあ、たぶん離婚するって言いますよね。

うんうん。

——で、離婚、ホントに思うんですよ。まずそこを何とかできる自信がないですけど。

うーん。

——ホントに離婚したときに、そうですね、完全に人でなしみたいな感じで、周りの人から言われて、だれにも理解されないというか……そういうのがありますね。

——で、ひとりぼっちになってしまうというか、そんな感じですかね。

うーん……なかなかコアなところに入ってきましたね。興味深いです。

やっぱり理解してくれないと思います？ 彼女にそう言っても。

——してくれないと思いますね。

そっか。じゃあ、僕とちょっとケースがちがうってことが、ここでわかったんですけど。

僕は、理解はしてくれるとは思うんですね。僕の場合は、もし相手に話したとしたら。ただ、向こうがおなじことをするって言われたらいやなんです。僕は嫉妬の感情が強いから。

それがすごい嫌なんですね。僕にとっては、だからそれが怖いんですけど。

〇〇さんは、またちがう。〇〇さんの場合は、そういうことを理解してもらえない。ギャーっとなって、だれも理解してくれなくて孤独になってしまうんじゃないかっていう。そういう気持ちですよ。

——うん。

孤独って、よく感じてました？ いままで。

——孤独は、うーん、感じてましたね、はい。

いまも、じつは感じてます？

——いまも、たまに感じますね。

いつ？

——えー、何時だろう。

朝、起きたときとか。夜、寝るときとか。お風呂に入ってる時とか。

——まあ、基本的にはひとりで、いるときなんですけど。

——ふと……ふとってわけでもないな、やっぱ何かが引き金になって……、やっぱ、わかり合えないときとかですかね。

孤独を感じて、さみしい気持ちになる。

——うーん。

すごくさみしいです？

さみしいなって思ったとき、ちょっと一瞬でも孤独を感じたら、どうやってそれを感じないようにブロックします？ わすれられるように隠します？

——えー……

本を読むとか。映画を観るとか。電話をするとか。メールを打つとか。

——そうですね。だれかに会いたい、連絡を取りたい……連絡をとることが多いですね。

うーん、そうか。

孤独、さみしい。たぶんそこが何かのキーワードになってますね。

——昔、子どものころは、ホントにそうですね。そういう気持ちは……

とくにあった。

——そうですね。

さみしかったです？　ずっと。

——さみしかったですね。

とくに、いつごろが一番さみしい時期でした？

——小学生から中学を卒業するぐらいまでですかね。

なぜ、さみしかったと思います？

——何ですかね。

ひとりぼっちで、友だちとかあまりいなかったとかってあります？

——いや、いました。友だちはいたんですけどね。何でだろうなあ。

さみしかった。

お父さん、お母さんは、あまり愛してくれてなかったです？

——いや、すごく愛してくれていたと思います。でも、完全にわかり合えてる感じは、していなかったですね。

そうか。かなり深いところに入らないといけないんですけど、今回、そこまで時間がなくて、あれなんですけど。

うん。さみしい、孤独。正直に言う。理解されない。孤独になる。ひとりぼっちになる。何かそういう……だからセックスとはあまり関係ないと思いますね、じつは〇〇さん。

——うん。

うん。だから女性に対して、長くいるとセックスがしたくなくなってしまう。性的魅力を失ってしまうんですけどっていう問題ではないと思うんですね。じつは〇〇さんは。

——そうだと思います。

そう、だからそうではなくて、何かこう、自分を理解してくれない＝ホントのことを絶対いえない＝隠れて何かしなきゃいけない＝いつかバレる＝問題になる＝孤独になる、みたいな。そして不幸になる、みたいな。

何かそういう……それを書いたほうがいいですよ。ちょっといま、書いておいたほうが良いと思うんですけど。

例えば、

[ステップ1]

だれにも理解されない。

[ステップ2]

ホントのことを言えない。

[ステップ3]

隠れて何かをする。コソコソ何かをする。

[ステップ4]

いつかバレる。

[ステップ5]

問題になり、きらわれる。

[ステップ6]

孤独になる。

[ステップ7]

不幸になる。

この7ステップで、〇〇さんは生きてると思うんですね、いままでずっと。

——そうだと思います、うーん、そうです。

だからこの7ステップをまたどんどん書きかえなきゃいけないと思うんで。

そう、だから性行為の興味を失ってしまうっていうのは……僕もたまに、やりたくない時とか、あるんですけど。「どうしてやりたくないの？」って、言われたときは、例えば、その月が5月だったりしたら、「いや5月は、性的活動が、盛んじゃないんだよ」とかって、僕は言うんですね。

—— (笑)。

それホントに言ったんですけど（笑）。立たなくなっちゃって、一週間ぐらい。それは、〇〇さんにも言ったのかな一回。覚えてます？ 〇〇さん。

——はい、覚えてます。

〇〇さんにデイリーメールで、返事的时候に何回もそれを書いたと思うんですけど。

何かこう、立たなくなっで、性的魅力を感じなくなっただんです、そのときに。

でも、それは僕の中でぜんぜん問題じゃないから。「なんで立たないの、私のこと嫌いなの？」って言われて。で、「5月は、男にとってすごく重要なときでね」とか言って、「活動をなるべく控えて、エネルギーを高めるときなんだ、わかったか」とか言って。

そうしてら、「あー、そうかあ」とか言って（笑）。そう。

それでまた回復したんですけど。なので、性的魅力を失うってことは、僕の中ではあまり問題ではないから、そこに見るものもないんですけど。

〇〇さんは、感じてしまった。なぜだろうって感じていくと、じつは、その7ステップが心の中にあった。

だから、何でも正直に言えないし、何か理解してもらえないから孤独になるのが怖いっていう気持ちで……だから性的魅力のことじゃなくても、他のことでも、おなじその7ステップが入ってると思うんですね。

——うーん。

セックスを感じないんですけど、どうしたらいいんでしょうかっていう質問以外にも、たぶんいっぱい質問があると思うんです、〇〇さんにとって。

例えば、お客さんに対して、かっこつけてしまうんですけど、どうしたらいいんでしょうかという質問になってしまうかもしれないし。

その7ステップに関連する質問が、たくさん出てくると思うんですよ、〇〇さんの中で。

——そうですね、ほとんどそんな気がしてきました（笑）。

うん、だからすごい興味深い神話だと思うんですけどね。

だから、その7ステップを書いておくと「ちょっと待てよ」って、それを振り返って「やっ、当てはまってる」とかって、なると思うんですね。

そう、だからホントに〇〇さんが見なきゃいけないことは、じつはこのステップなのかなって。で、その根源が幼少期にあったと思うんです。

何か理解されなくて、自分がさみしい思いをしたっていうのが、あったと思う。たぶんそれが、このステップになったと思うからね。

それを塗りかえるために、まずそれが自分の現実だってことを気づかなきゃいけないし、ああそうか、そういう現実だったんだってことも、ちゃんと見なきゃいけないし、受けとめなきゃいけない。

そして、じゃあどんな現実をもちたいんだろうっていう。

例えば、いま訊きたいんですけど、この7ステップをちがう7ステップに変えてもらえます？ 超理想のスーパー理想の7ステップに変えてもらえます？いま。

——はい。

完璧な、たぶんこれは無理だろうけど……無理だと思っていいですよ、現実がちがうから。でも無理だろうけど、こんな現実があったとしたら奇跡のようなもの。映画やドラマの世界かもしれないけど、もしこういうのがホントにあるとしたらちょっと感動するかもっていう、現実の7ステップにしてくれます？

——はい。えー、ホントのことを伝えられる。

全員、僕のことを理解してくれる。

——理解してくれる。だから、怖がらずにホントのことをいつも伝えることができる。

うんうん、いいですね。それで、ステップ3。ステップ1と2、いきましたね。ステップ3。

——なので、つねにみんな深くつながって。つねにもっと深くつながっていくことができる。

ステップ4。

——もっと、いままでよりも、いろんなことからたくさんの喜びをもつことができる。

つぎのステップは。

それを僕が追加するとしたら、そういう深い人間関係がたくさんできるっていうのは、どうです？ そういう人間関係が。ひとり、ふたりじゃなくて。ホントにもうたくさん、そういう人間関係をもつことができるって、いいですよ。

——うん、はい。

つぎは。……まあ、幸せになるとか、何でもいいですけど。

——そうですね。

いつも安心、みたいな感じで。

——うん。

まあ、その7ステップを自分で振り返って書き直してみて、これはちょっと完璧だろうって思うような7ステップを書いてみて、それをまず意識して「ああ、これが理想なんだ」って。

そして、それをもってる、その現実をもってる人を見つけてみるってこと。

——うん。

うん。それをもっている人を見つける。その現実をもっている人を見つけて、その人と接してみて、コミュニケーションをとってみて、話を聴いているうちに、それにどんどん感化されて、影響されて、〇〇さんも知らず知らずのうちに、その現実生きるようになって、幸せになれますよね。

——うん。

そう。だから、まずはその自分が理想としている現実、理想としている7ステップは何なんだろうってことをちゃんと書き出してはっきりしていないと、そういうモデルを見つけることさえもできないですよ。

——はい。

だから、いま〇〇さんがもってる、だれも理解してくれない、ホントのことが言えない、隠れて何かをする、いつかバレる、関係が破局する、終わる、孤独になる、不幸になるっていう、そんな生き方をする必要はないと思うんですよ、これからは、もう。

——うん。

そう。奥さんに対しても、ビジネス・パートナーに対しても、お客さんに対しても、すべての人に対して、そんな現実をもって生きる必要はないと思う。

で、その現実をもっているかぎり、絶対そうなるんですよ、いつか。50歳、60歳のときに、あれっ、孤独になってるよって、なるんですよ。

想像した通りになるんで、ホントにそれは変える必要があるし、もつ必要はないってことです。

——うん。

ホントに理想の現実をもつことは絶対できるし。そういう人がどんどん集まってくると思うしね、そういう現実をもったときに。

自分が新しい現実をもったときに、周りにも、おなじような現実をもった人がたくさん集まってきてくれるから、もっとハッピーになれるしね。

ちょっとこれは、僕が話している「進化させるコミュニケーション法」とは、かなり変わってきてるんですけど（笑）。

僕はアドリブをよくつかうんで、こうなって、アドバイスとか、よくしてしまうんです。

それは何で、今回はアドバイスしてしまうかっていうと、〇〇さんにちゃんと、僕のアドバイスを受け入れる準備ができていたりして、僕も定期的に話してるから、こういうふうになっちゃうんですけど。

まあ、一般の人には、いきなり現実とはとか、ステップを教えてって、意味がわからないですよ。だから、こういうちょっとちがう、今回は複雑なバージョンだと思うんです。

でも、聴いている人も、例をみているとわかりやすいと思うんですね。

僕たちが抱えている問題っていうのは、問題じゃないんですよ、じつは。

じつは、何かの現実が入っていて、それが僕たちの問題点をつくり出してるんですね、繰り返されている現実が。

だから〇〇さんは、ホントに、理解してくれると思いますよ、すべての人が、かならず。

——うーん。

で、ギャーとはなりますよ、みんな。周りの人はね。ギャーとはなりますよ。でもそれは、理解してないっていう意味じゃないんですよ。ギャーとなるのは、感情なんです、それは。

ああくそー、くやしい、とかね。嫉妬とかね。感情なんですこれは、単純な。

決して「そんなの理解できない」って、言ってるわけじゃないです、じつは。

——うーん。

「理解できるけど、くやしい！」って、言ってるんですよ、じつは。

——ああ。

「理解できるけど、さみしい」って、言ってるだけなんです。それをギャーって言ってるだけなんです、いろんなことばで。

わかりますか。だから、理解されてないって思わなくてもいい。

ああ、理解してくれてる。でもそれと同時に、感情が出てると思えばいい。

だから、ホントに〇〇さんには、第4話を聴いてほしいんですけど、新アドバンスマインドの。

感情を出させてあげて、波に乗せてあげて、波が去ったときに、はじめて話をもっと深くできるっていうステップなんですけど。

その現実。新しい現実。

みんな理解してくれる。絶対に理解してくれる。だから、正直に言える。まずこの2点を信じる。

僕はそれをもってるんでね、僕自身が。まあ、みんなに対しては、ないですけど。もとうとしてるって言ったほうが正確かな。もとうとしてるかな、いまは。

正直に言ってもいいっていう。彼女にもホントのことを言わなきゃいけないんですけど、僕も。

でも、僕は理解はしてくれると思う、彼女は。でも、ただおなじことをされる

のが怖い。嫉妬っていう感情が僕はすごくあるから。それがちょっと、引っかかってるんですけど。理解はしてくれると思う。

だから、〇〇さんもそう考えたらいいと思う。理解はしてくれる。

——はい。

ちょっとこの方程式からは、はずれちゃったんですけど、何とか戻そうとすると……。今回の状況というか、問題点から、どういうことを学びました？

——ひとつは、表面的に見えている問題と、実際にホントに自分が怖がっていることとか、恐怖を感じていること、不安に思っていることっていうのがちがうっていうのは、思いました。

では、自分自身について何を学びました？ 何を気づきました？

——自分自身については、やっぱり理解されてないっていう気持ちさがすごく強くて、それで不幸になる、さみしくなる。理解されてないから本当のことが言えないっていう、もうまさに、ほとんどそのパターンだなんて思いました。

じゃあ、これから今回いろいろなことに気づいた、ふたつのことがとくに気づいたと思うんですけど、どういうふうにして、それを教訓にしていけて、これから本当に活動できると思います？

——やっぱりまず、理解されてないかどうかは、本当のことを言ってみないとわからないと思うので、ホントに小さなことから、ホントに思っていること、感じていることを言っていこうと思いました、はい。

うん。いいですね。小さなことから……。例えば、ちょっと「俺じつはね、女好きなんだよねえ」とか、言ってみるのもいいかもしれない。

「えっ、女好きなのあなたは」、「うん、じつは」って。そっからスタートでもいいかもしれない。ちょっとしたことから。

俺は他の女といろんな体位でセックスをして膣内に射精したいっていう欲望をたくさんもってるって言うと、言い過ぎですね。

—— (笑)。

そう。それはちょっと怖いんですけど。いつか、その積み重ねで〇〇さんも奥さんに対して「いやぁ～もういつか、お前も交えて、4人ぐらい一緒にブチ込みたいないな」とかね。「でも、中で出すのはお前だからな、いいだろう?」とか言っただけ。

—— (笑)。

「うーん、まあいいわよ」ってことになるかもしれない。

——うーん。

ホントに。

で、僕はその現実をもってますからね。もとうとしてるから、絶対そうなると思うんですけど。一夫多妻制の大家族みたいな(笑)。わかりますか。つねに4、5人の女性と毎日やってるみたいな。しかも、愛しあってるっていう感じ。

はべらかせて、ワッハッハと言ってる感じではなくて、一人ひとりをホントに愛してるって感じかな。

——うーん。

それで、全員に射精をしてあげる感じ。

——うん。

すばらしいですね。

——うーん。

そういう現実だから、いつかそうなると思いますけど、近い将来。

だから〇〇さんも、何でも現実ってつくれるんです、これから。

——うん。

何でもできるんです。何でも可能なんですね。ホントに成功法則じゃないですけど、本当に思考は現実化するんです。

現実ってことばは、そうですね。現実化するんです。自分の思考がね。そう、だからホントに求めていることは、絶対に自分の現実に取り込むことができるし、自分の世界にすることができるんです。

だから、もったいないですよ、おなじ人生を生きていて、いやあ、だれにも相手にされなくて、だれにも理解されなくてウ〜って思ってる人生と、みんな、なんで俺のことをこんなに理解してくれるんだろう。何でも正直に言えてホントにハッピーだなんて思える人生。

——うーん。

そっちのほうがいいですね。

——そっちのほうがいいです。

そう。だから自分でそう思ったらいい。絶対できると思う。

——はい。

すばらしい。

OK。じゃあ、ちょっと10分間、休憩をとります。

新アドバンスマインド 第5話 パート2

さっきは、いろいろ実際にコンサルタントのような立場で、相手を進化させてあげるコミュニケーションの方法をつかって、相手に状況を把握させて、自分で状況を話させて、その感情を話させて、そして、自分について何を学んだか、今後はどうしていきたいのかってことを訊いていきました。

大まかにいえば、このステップをつかうと、人は自分で答えを見つけ出すことができるってことです。覚えておいてください。パワフルです。

書いてほしいんですけど、

「ステータス・ゲーム」と、書いてください。

「ステータス・ゲーム」

僕は、アドバンスマインドでステータスの話をして……もう、2年、3年ぐらい前になるかな……それで、みんなが「オオッ」と意識しはじめたと思うんですね。「ステータスカ!」と思って。「かっこつければいいのか!」みたいな。

相手より立場が上になればいいんですね、みたいな。そういう、ステータスという概念が生まれたと思うんですけど。

多くの人は、この概念を知っているいないに関係なく、ほとんど90%以上の世の中で交わされているコミュニケーションは、ステータス・ゲームなんです。

どっちが偉いのかを知りたいとか、まあステータス・ゲームであったり、心理ゲームであったり、何らかの変なゲームなんですね、90%以上が。

とにかく自分が認められたいとか、自分が上に立ちたいとか、自分が優位に立ちたいとか、自分がすごいと思われたいとか、いろんな気持ちで、自分が勝ち

たいとか何らかの感情を得たいっていう気持ちでとっているのが、90%以上のコミュニケーションなんですね。

それをお互いにし合っているんです。ステータス・ゲームをし合ってるんです。火花を散らしながらそれをやってるんです。それがほとんどなんです。それをわかってください。

で、世の中のすべての人が、だれかと会話をしたときに感じることは、90%以上のときは、「だれも理解してくれない」と、思ってるんです、みんな。

世の中の人、だれも理解してくれないと思いながら、人とコミュニケーションをとってるんです。

だれも俺のことなんか理解してくれてない。だれも俺に共感してくれない。だれも俺のことをわかってくれようとしな。だれもわかってくれない。

ただ、この人は俺よりステータスが上になりたいんだな。俺より立場が上になりたいんだな。あつ、この人は自分のことを考えてるんだな。

じゃあ、俺もおなじことをしよう。

じゃあ、自分も相手のことなんて理解する必要はないな……その繰り返しなんです、90%以上は、世の中の。

〇〇さん、そのステータス・ゲームを感じたことってありますか？

——はい、あります。

どっちが上なんだろうみたいな。

——はい。

最近の話で、できるだけ最近の記憶に鮮明に残っている中で、何かそういうの、ありますか？ 感じたなあっていうとき。

——あー、〇〇さんとテレセミナーをしてるときに、やっぱり自分のほうが上にいたいのかなっていうのを感じました。

どういうところから、それを感じました？

——僕が何かを言ったときに、かならず、ちがう話を……俺はもっと、こういうことを知ってるぜ、みたいな感じで（笑）、ちがう話をかぶせてというのが何回かあって。やっぱり、その辺を気にしてるのかなと思いました。

彼は、俺のことを理解してくれて、俺に共感してくれて、俺のことを本当に思ってくれていると思いました？

——思わなかったですね。

相手がステータス・ゲームをしているとき、心理ゲームをしているとき、相手が何か恐怖を感じて、不安を感じて何かを話しているときに「俺のことをホントに理解してくれている。この人についていこう」って、思います？

——思わないです。

もし相手が、まったくステータス・ゲームをせずに、心理ゲームとか妙なゲームはまったくせずに、しかも自分の恐怖とか不安とかを……あるはずですけど、でも、そんなことは関係ない。いまは〇〇さんの話を聞きたい。

〇〇さん、話を聞かせてくれ。……そうなのかって、ただ、聴いてくれたら、〇〇さん、どう思います？ 彼について。

——そうですね、すごくうれしくなって、ホントに何か心が温かくなって、信頼すると思います。

感じますよね。

そこにステータス・ゲームがない。妙なゲームがない。心理ゲームがない。自分の不安や恐怖から生まれた会話をしていない。

あなたのことをもっと話してくれると思ったときに、人は、安心して、さみしくなくなるんですね。

ここで覚えてほしいことが、このステータス・ゲームをすればするほど孤立します。これは書いたほうがいいかもしれない。

ステータス・ゲームをすればするほど、あなたは孤立します。そして、あなたについてきてくれる人は減っていきます。ステータス・ゲームをすればするほどね。

ステータスってものは、ゲームできるもんじゃないんですね。

ステータスというものは……この前のチェンマイセミナーでも話したんですけど、いろんな要素がありますよね。

自分自身もってるビジョン、そして、提供しようと思っていること。

そして、それにどれだけパッションをもっているか。そして、どれだけ自分の感情を冷静に受けとめて、それを理解して。

相手の感情も冷静に受けとめて、しかも相手を理解することができる。そして、精神面でも、深い進化を得て、知識面でもつねにレベルアップしていてという、いろいろな要素があって、それがステータスなんです。

ステータスは、ゲームできるものじゃないです。ゲームで高い振りができるものじゃないです。

あなたが、「俺はステータスが低い振りができているなあ。俺はステータスが低いと思われてる」と思った瞬間、相手は、あなたのステータスが低いとは思ってなくて、「この人は何をこんなに気張ってるんだろう」とか、「何をこんなに、かたい姿勢を張ってるんだろう」って、感じてるだけなんです。

相手はバカじゃないんですね。

相手がたとえ、たぶん10歳の子どもでも、それは気づくんです、じつは。10

歳の子どものほうが気づくかもしれない、正直にいうから。

あなたがどんなにかっこつけて、ステータス・ゲームをしても、相手は、「あっ、この人はゲームをしてるな。ホントは弱いんだな」って、見破られてるんです、すべて。バレてるんですね。

だから、ステータス・ゲームをすることは、もうやめてほしいんです。

できないってことに、気づいてほしい。

そして本当のステータスを手に入れてほしいんです。

で、本当のステータスをじゃあ、手に入れようかっていう話をする前に、まず覚えてほしいことは、人はさみしいんです。人はさみしい。

90%以上の人が、ステータス・ゲームをして、自分が上に立とうとして一生懸命、会話している。そういう世界ですよ。

人は、さみしいんです。

だれも、俺のことを親身になって考えてくれない。だれも、俺のことなんて理解してくれない。だれも共感してくれない。

さみしいんですね。

だから、これからあなたが考えなきゃいけないことは、ステータス・ゲームは、できない。じゃあ、どうやって俺はステータスを高くできるんだろう……じゃなくて、そんな考えはもう、もたないでほしい。ステータスを高くできる方法なんてことは。

これからは、どうやったら相手のことをもっと理解できるんだろう、どうやったら、さみしく感じている世の中の人たちに安心感を与えることができるんだろうってことを考えてほしい。それがステータスになるんですね。

どうすればステータスが高くなるんだろうってことを考えれば考えるほど、ス

テータスは低くなるんです。

ステータスなんて関係がないんです、自分にとって。

さみしい人を、癒してあげてほしいんです、あなたが。傷ついている人を、癒してほしいんです。

みんな傷があるんですね、世の中のすべての人たちが。犬だって、猫だって、ネズミだってあるかもしれない、トラウマとか。

癒してほしいんです。傷を癒してほしいんですね。

で、あなたが……いまこれを聴いている人は、会社で働いているかもしれないし、主婦の方かもしれないし、ビジネスをおこなっている人かもしれないし、コピーライターかもしれない、大きな企業をもってるかもしれない。

いろんな仕事をしている人たちがいると思うんですけど、あなたたちが、何でそういう仕事をしているのかと考えたときに、僕はその答えが「だれかの傷を癒すため」そして「自分の傷も癒すため」という答えであってほしいと願ってるんです。

お金持ちになるためとか、この商品を販売してなんとかかんとか……そんなの、うわべだと思うんですね、僕は。

僕たちがしようとしていることは、傷を癒しあうことだと思うんですね。自分の傷もそうだし、周りの人たちの傷もそう。それを癒しあうことを僕たちは一生懸命しようとしてるんだと思う。

だから、コピーライターの人は、じゃあ、このコピーで反応率をどうやって高くして商品をバンバン売ることができるだろうか……じゃない。

どうやったら、これを読んでいるお客さんの傷が癒せるんだろう。どうやったら自分が癒す立場になれるんだろう。癒してあげたいな。自分も癒されたい、と思いながら書く。

ビジネスをおこなっている人も、お客さんに対して、どうやったらこの商品を売って彼らの……そんなことじゃないです。

傷を癒してあげてほしいんです、人の。

で、ステータス・ゲームなんて捨ててほしいんです。

傷を癒す人になってほしいんです。

で、つぎに書いてほしいことですけど、

「涙」と、書いてください。

「涙」

〇〇さんは、涙と聞いて何を思います？

——涙と聞いて、さみしい。悲しい……とかですか。

さみしい、悲しい。まあ、ブルーな感情が生まれますよね、そこから。

——はい。

女性もそうですけど、男性もそう。あなたの目の前の人が涙を流しているときは……例えば、こういう質問をしたいんですけど。

例えば、目の前で女性が泣きはじめたら、〇〇さんは何を感じます？

——慰めてあげたいという気持ち。

慰めてあげたい。

〇〇さんは、目の前の女性が、うわーっと泣きはじめたらどう感じます？ 正

直に言ってくださいね。

——どうしたんだろう、とかですかね。

うん。僕はめんどくさいなって、いつも思ってたんですね。僕の場合は。女性が泣きはじめると、あ、めんどくさい、と思ってたんですね。

まあ、人それぞれ、いろいろあると思うんですけど。どうしたんだろうって思ったり、慰めてあげたいと思ったり、僕の場合は、めんどくさいなと思ったり。

他の人は、「問題点は何だろう」とか論理的に考えたり。いろいろあると思うんですけど。

女性がね……男性もそうですけど、とくに女性が、涙を流しているときは……これは書いてほしいんですけど……僕たち男にとって、最大のチャンスなんですね。

「女性が涙を流すとき＝最大のチャンス」と、書いてください。

「女性が涙を流すとき＝最大のチャンス」

何のチャンスなのかというと奇跡のような人間関係をつくるチャンスなんです。

人間関係を深めるチャンスなんです、それが。

女性が涙を流すときは、僕たち男にとって、最大のチャンス。何のチャンスかというと、奇跡のような人間関係をつくるチャンスなんです。

涙とは何だと思います？ 泣くっていう行為は。〇〇さん。

——心を開いている。

心を開いている。〇〇さん、何だと思います？

女性が涙を流すとき＝最大のチャンス

泣くイコール、何だと思います？

——限界まで感情が高ぶっている。

感情が高ぶっている。〇〇さん、何と思います？

泣くイコール、何？

——感情が破裂するとかですか。

感情が破裂している。〇〇さん、泣くイコール、何だと思います？

——聴いてほしいとか、理解してほしいっていう現れだと思います。

うん。聴いてほしいとか、理解してほしい。

書いてほしいんですけど、

「泣く＝癒されてる」と、書いてください。

「泣く＝癒されてる」

泣くっていう行為は……これは医学的っていうのかな、生物学的っていうのか、わからないですけど、興味深い話で。

泣くっていう行為は、僕たちの怒りであったり、悲しみであったり、恐怖であったり、いろいろ感情があると思うんですけど。さっき、みんなが言ったように、感情が高まっているときに、涙が出ますよね。

感情が高まっているから、涙が出るんじゃないんですね、これはじつは。

感情が高まってる……その感情の波が押し寄せてきてる……その感情を癒しているプロセスなんです、その涙で。

泣く＝癒されてる

要するに例えば、津波が襲ってきて、そして、去って行って、その街は、汐だらけになり、泥まみれになった、それでドロドロになっている。

そのときに大雨が降るような感じです。

そこに大雨が降ったら、泥まみれになっていた、汐まみれになっていた街が、洗われるっていうのかな。

まあ、直接的な比喻はちょっと見つからないですけど。要するに涙を流すっていう行為は、癒してるんですね、泣くことで自分自身を。

これは、医学的か生物学的かわからないですけど、実際にストレスホルモンがいろいろ出ているときに、そのホルモン物質自体を、涙として目を通して外に出すっていう行為らしいです。まあ、くわしくはちょっと、わすれちゃったんですけど、もう何年も前に聞いた話なんで。

要するに、自分の痛みとか感情で、ストレスホルモンがたくさん出ている。

それを外に出す……オシッコみたいなものですね。溜まったものを出すっていう感じで。

そのストレスの要因となるホルモンを目から出してるんですね。

だから、泣くっていう行為は、癒している行為なんです。

治癒なんです。ヒーリングなんです。ヒーリングしてるんです、自分自身を。

僕たち男にとって、この涙を流している瞬間……まあ、男でも女でもそうですけど、相手が涙を流しているときは、人間関係をもっと深くするチャンスなんですね。それを覚えてください。

人間関係を深くするチャンスなんです。

多くの人間は……とくに男性は、例えば、女性が目の前で泣いていると、〇〇さんは、彼女に何て言います？ エーンエーン、ヒックヒックって泣いてるん

泣く＝癒されてる

ですよ。

——うーん。

泣かなくていいよって言ったことないです？

——ああ、あります。

ありますよね。

多くの男性は、僕もそうなんですけど言っちゃうんですね、こういうふうに。

泣かないでいいよ、何で泣くの？ 泣かなくていいよって言っちゃうんですね。

癒そうとしてるんです彼女は自分自身を。それをやめさせるんです、僕たちは。

癒さなくていいよって。

何で癒してんの？

ようするに、泣く＝癒す、ですよ。

じゃあ、それを言い換えると、何で癒すのって、癒さなくていいよって言うてるんですよ。それとおなじことなんです。

女性が、一生懸命自分で、感情で傷ついた自分自身を、涙を流すという行為で洗おうとしている、出そうとしてる。癒そうとしている、自分を。

で、僕たち男たちは横で、何で癒してんの？ 癒さなくてもいいじゃん。もう、はやく癒すのやめろよ、大丈夫だからって言うてるようなものなんですよ。

僕たち男たちは、それをすぐしちゃうんです。

で、問題点を言ってみな？ 俺が解決してやるから。癒さなくていいよ。もうなんで癒すの？って、そんな感じなんですね、僕たちの言ってることは。

泣く＝癒されてる

大きな字で書いてほしいんですけど、

「安心できる空間」と、書いてください。

「安心できる空間」

女性が涙を流すときに、あなたがしなければいけないことは、安心できる空間を彼女に与えることなんです。

何で泣くのとか、泣かなくていいよとか、どうしたの？ 問題点は？ とか、論理的に解決してやるよ、俺はすごいぞとか、そんなことは何も言わなくていい。

安心できる空間をつくってあげることなんです。女性が涙を流すときは。

泣かなくていいよとか、理由をおしえてくれとか、なぜ泣くのとか、そんなことは訊かないんです。安心できる空間をそこに構築してあげることなんです。

で、安心できる空間っていうのは、どうやったらつくることができるのか。

安心できる空間ですよって、口で言うことも……まあ、うまく言えば、それも達成できると思うんですけど。

それは、僕たちのボディランゲージだと思うんですね。

僕たちのボディランゲージで、安心できる空間っていうのを構築できると思うんです。わかりますか。ことばじゃないってことなんですね。

ボディランゲージっていうのは、どういうものか。

顔の表情もそう。どういう表情で相手の話を聴くか。どういう表情で相手に接するか。どういう表情で相手をみつめるか。

自分の体はどこを向いているのか。あなたの腕はどこにあるのか。あなたの足

安心できる空間

はどこにあるのか。あなたの胸はどこを向いているのか。

あなたはどのようなボディランゲージをもって、涙を流している彼女の目の前に立っているのか。

そのボディランゲージのあり方で、彼女が安心できる空間っていうのをつくることができると思うんですね、男は。

〇〇さんに訊きたいんですけど、例えば、死にそうになっている人がいるとします。死にそうになっている小さな女の子。

何かの事故か病気で死にそうになってて、もうあと数分で死ぬだろうと思うぐらい重傷な子どもで、10歳ぐらいの小さな、かわいらしい女の子なんですね。

泣いてるんです。怖くて、痛くて、つらくて、死にそうだから泣いてるんです、涙を流して。

〇〇さんは、その彼女を目の前にして、どういう表情をしますか？

——うーん、表情ですか？

表情です。

彼女は泣きながら、〇〇さんの顔を見上げてるんです。もう、死ぬってわかってるんですね。痛くて。事故で血が流れてるんです。

〇〇さんも、もう助けることはできないってわかってるんです。でも彼女は、〇〇さんの顔を一生懸命見上げてるんです、泣きながら。

——できるだけ、そうですね。笑顔ですかね、笑顔……笑顔っていうか……

笑顔も、うーん、ちょっと、ちがうかもしれないな……

何で泣くの？ 泣かなくていいじゃんって言いますか？

安心できる空間

——言わないですね。

まず、なにも言わない。

——うーん。

笑顔でニコニコしてピースとかします？

——いや、それはちがいますね。

真顔ですか？

——真顔ですね。しっかり見ると思います。しっかり見て……

うん。これはみんなにも、これを聴いている人も想像してほしいんですけど。

目の前で、もう死にかかってて、もう死ぬとわかってて、悲しくてつらくて、怖くて泣いてる少女がいたとして、あなたは、どういうボディランゲージを彼女に与えることができるんだろうってことを考えてほしいんですね。

泣いてるから、何かこういうことを言おうかなとかじゃなくて、どういうボディランゲージを自分をもってたら、彼女が安心できるのだろう。

もう死ぬんですよ。でも、最後に安心して死んでいける……それをみんなで考えてほしいんです。ちょっと想像しながら、時間があるときに。

これが大きなヒントになります。あなたの本当のボディランゲージをこれから表現していく。

僕は初期のころのアドバンスマインドで、ボディランゲージに関しても、いろいろ話したと思うんですね。

なるべく背筋を伸ばせとか、いろいろあったと思うんですけど。手の位置はこうとか、そんなうわべのテクニックは、つかわなくてもよくなるんです。

安心できる空間

これが真のアドバンスマインドのボディランゲージなんですね。

小さい少女が目の前で死にかかっている、もう死んでしまっているんです。で、痛くて、怖くて、悲しくて泣いているんです。で、あなたの顔を見上げて。その最後の瞬間に、彼女に安心できる空間を与えるために、あなたが持てる、彼女に与えるためのボディランゲージって、何だろう。

これを考えたら、そこで真の男のボディランゲージが生まれるんですね、あなたの。

書いてほしいんですけど、

「ことばは、もういない」と、書いてください。

「ことばは、もういない」

ことばは、もういないんですね。ことばは、必要じゃなくなるんです。

あなたがどれだけ目の前の人に集中しているか。

その場でどれだけ、あなたが冷静でいられるか、存在しているか。

どれだけ静かな、相手を包み込む強さをもってるか。

どれだけ相手に対して、同情しているか。相手の気持ちをホントに理解して同情しているか。

これが、僕たちが求めるあり方なんですね。

何を言うとか、どういうボディランゲージをとるとかじゃないんです。

目の前の人に対する気持ちなんですね、すべてが。そして、自分自身に対しての気持ち。

ことばは、もういない

安心できる空間を与える男になってほしいんです、あなたたちには。

自分自身の感情をみつめて。

アイコンタクトで相手の目をみろって話をしましたが、初期のアドバンスマインドで。目をみて、目をそらしたら負けだぞとか、威嚇しろとか、そういう意味じゃない。

いまもう死にかかっている、悲しい、あなたに頼っている、その少女に対する、あなたのやさしく、そして頼れる、そして強い、アイコンタクトなんです。

少女が死にかかって悲しいときに見上げたとき、あなたの目がキョロキョロしていたら、安心できないですね。

でも、見上げてみたら、あなたがジッと深く彼女の目をみつめて「大丈夫だよ」という表情で、彼女の手を握りしめてあげたら、安心して死ねますよね、その少女は。

それが真のアイコンタクトなんです。

負けたらダメだ、先に目をそらしたほうが負けだ。アイコンタクト、負けないぞ。くそー……そんなものじゃないです。

こころも。

その小さい少女に、あなたのすべての気持ちを与えてほしいんです。

で、それができたときには、もう、ことばなんて必要なくなるんですね。もう必要ないんです。

あなたの問題点は何でしょうかとか、ということはですねとか、そんなことは、もう言う必要がなくなるんです。

ただ、あなたがそこにいだけで、安心できる空間が発生して、そして、その目の前の男性でも、女性でも、小さな子どもでも、おじいさんでも、おばあさ

ことばは、もういらない

んでもそう、あなたに信頼をもって死ねるし、あなたに信頼をもって、心も開けるし、進化もできるんです。

安心できる空間を与える必要があるんです。

そして、それはボディランゲージでつくることができるんです。

で、女性がね、彼女とか、恋人とか、奥さんとか、女友達とか女性が、例えば、ワーッと怒って、泣きはじめたり、暴れはじめたりしたときに、これを思い出してほしいんです。

安心できる空間を与えるには、どうしたらいいんだろう。どんなボディランゲージをもって、どういうふうに、その空間をつくってあげられるんだろう。どうやったら、安心させてあげることができるんだろう。

そして、どうやったら、いま彼女が乗っている感情の波をちゃんと乗せてあげることができて、最後まで見届けることができるんだろうと考えてほしい。

自分がことばを発するのは、あとでいいんです。彼女の感情の波が引いたときに、さっきの進化するコミュニケーション法のようなステップで、話しかけてあげたら、彼女も自分で進化させることができると思う。

でも、彼女を進化させるまえに、あなたが取らなきゃいけない行動は、安心できる空間をもって、それをボディランゲージで伝えることなんです、表情とか、すべてのものでね。

そうすることで、人間関係ってものは、奇跡のような関係になっていくんですね。

女性もそう。女性との人間関係もそう。

相手が、感情の波に乗って、感情が湧き出てきて、涙が出て、暴れはじめて、叫びはじめたとき、それはチャンスなんです、最大の。奇跡の人間関係をつくる僕たちにとって。

でもそのチャンスをつかむためには、あなたは、真のボディランゲージをもた

ことばは、もういない

なきゃいけない。真のアイコンタクトをもたなきゃいけない。真のステータスをもつ必要があるんですね。

そうすると安心できる空間が生まれる。そして、奇跡の人間関係が発生するんですね、そこで。

で、これを聴いてて、じゃあわかった。女性が泣いたり、だれかが泣いているときには、つねにこれをやったらいいんだなと思って、例えば、小さい子どもが「お菓子ほしい、お菓子買って」って、泣きはじめたとき、安心できる空間を与えようって、そういう意味じゃないってことです。

例えば、女性がドラマのシーンで、ちょっと悲しいシーンで泣いていて、あっ、安心できる空間を、よし、ボディランゲージ、強いアイコンタクトって、そんなことは考えなくていい。わかりますか。

だから状況によってですよ。

相手が本当に、そこに意味のある涙を流しているときには、あなたは真の空間をつくってほしいし。

逆に、ただあまえて、ダダをこねてて、向こうも変なステータス・ゲームをしているような涙だったり……泣いた振りとかして、男の気持ちを揺さぶろうとする女性って、たまにいますけど。そういう変な心理ゲームを仕掛けてくる女性もいますけどね。

その時はべつに、真剣に対応する必要もないと思うし、真剣に対応してもいいし、どっちでもいいんですけど、心理ゲームに最初から乗る必要もないと思う。

でも、乗る余裕も……その心理ゲームに乗ってあげて、彼女をさらに進化させてあげることができたら、それもすばらしいと思うんですけど。

でもそれは、状況によってってことです。それを覚えておいてください。

で、書いてください、最後に大きな字で。

ことばは、もういらない

「女性は悲しんでる」と、書いてください。

「女性は悲しんでる」

女性は、つねに涙を流してるんですね。

女性は、悲しいんです。なぜかという、こういうことをしてくれる男性がないんですね、世の中にはあまり。

安心できる空間をつくってくれる男性がいないんです。

感情の波に乗せてくれる男性がいないんですね。

真のボディランゲージをもってる人がいない。

真のアイコンタクトをもってる人がいない。

だから女性は、つねに悲しんでるんです。それを理解してあげてください。

だからあなたは、その男になってあげてください。

その男になってほしい。

で、女性に対してだけでなく、ビジネスでもそう。パートナーに対してもそう。お客さんに対しても、そうであってほしい。

ステータス・ゲームをして、一生懸命「勝ち負け」みたいなことを考えずに、安心できる空間を与えてあげてほしいんですね、相手に。

そうすることで、奇跡のような人間関係が、次々と生まれてくると思います。次々と、もつことができます。

OK。じゃあ、今回の宿題です。

女性は悲しんでる

今回の宿題はですね、興味深い宿題を出そうと思うんですけど。

だれか、ふたりの人物とコミュニケーションをとってほしいんですね。

で、ひとり、ステータス・ゲームをしてほしいんですね、あなたも一緒に。

一生懸命、相手より高いステータスをめざして、それを意識して……なるべく自分のほうが有利に立つように「偉い」と思われるように……周りからみても、そういう状況になるように、ステータス・ゲームをしたコミュニケーションをとってください。

で、最低でも、その人物と15分は話してください。最低でも15分時間をとって……その相手に言わないでくださいね。いまからコミュニケーションをとってステータス・ゲームをするからなとか、言わないでください。

こっそりいきなり話しかけて、そして15分間、彼／彼女と話しながらステータス・ゲームをしてください。自分の中でこっそりと。

それで、自分がどういう感情をもったか、そして相手がどういう反応をもったかってことをみてください、分析しながらね。

それを書く。感想とか、いろんな気づいたことを書く。

で、つぎにもうひとり、みつけて。

その人物にはステータス・ゲームを完全に捨てて、自分の勝ち負け、エゴとかを完全に捨てる。

今回の話で覚えたように「あっ、この人は、さみしいんだ」「この人を安心させる空間をつくるには、どうしたらいいんだろう」ってことを考えながら、安心できる空間をつくる。

真のボディランゲージ、そして真のアイコンタクトをもって、共感・同情して、ただ、なにも言わずに、ボディランゲージで、彼／彼女を安心させてみる行為。

女性は悲しんでる

ただ、ずっと 15 分、無言だったらおかしいんで、ことばは必要だと思うんですけど。

ことばは必要だと思いますよ。でも、ムダなことばは入れない、ただ、相手を安心させる、その空間をつくることだけに意識をおいたコミュニケーション。

それを 15 分間、最低でもとって。そして、それをおこなったうえで、気づいたこと、自分が感じたこと、相手の反応、相手を感じているだろうと思うこと、感想など、すべて学んだこと、それを書いて送ってください。

そういう宿題をちゃんとやらないと、結果っていうものは生まれないですね。

サーキット・トレーニングのことをいくら考えても、サーキット・トレーニングをしないと筋肉っていうのはムキムキにならないです、わかりますか。

それとおなじです。

だから、こういう宿題が出たときには、確実に終わらせるためにも、意志の力がまだある、いまのうちにすぐ終わらせて、それを送っておくってことです。それを意識してください。

新アドバンスマインドの参加者の方の中には、もうホントに、言われてその日のうちにバンバンと、毎回ちゃんと終わらせている人がいるから、すごく関心なんですけど。

その人物をみても、すごく「あ、進化しているなこの人は」って、いつもみて思います。ホントにパパッとやる人は。

だから、そういう意味もありますんで、できるだけ早く終わらせてください。

その 2 点です、今回の宿題は。

ひとりには、ステータス・ゲームをつかって、15 分話す。

もうひとりには、安心できる空間だけに集中して、相手を安心させてあげるコ

女性は悲しんでる

コミュニケーションをとる。

そして、その感想、ふたつのやり方の感想です。

安心できる空間をさらに深めて、実践してください。

で、これをホントにマスターしたら、コピーライティングでもすごく、文章でもボディランゲージ以上に伝わる能力もついてくるし。

マーケティングをつかうときにも、ビデオで何かをするときにも、それを伝えることができる、ボディランゲージで。

だからホントに周りの人の傷を癒せる、そんな男になれると思うんで、長い目でみて、深く入っていきたいと思います、こういうところには。で、確実にマスターしていきましょう。

それでは、さようなら。

——はい、どうもありがとうございました。

索引

あ	
安心できる空間	53
こ	
ことばは、もういない	56
し	
女性が涙を流すとき＝最大のチャンス	49
女性は悲しんでる	60
す	
ステータス・ゲーム	42
な	
泣く＝癒されてる	50
涙	48
ひ	
人を進化させるコミュニケーション法	5

NEW ADVANCE MIND
新アドバンスマインド VOL.5

発行 2009 年 9 月 22 日

著者 Mr.X

発行 株式会社エンライト

URL <http://thenewadvancemind.blogspot.com/>

© 2009 ENLIGHTEN, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

本製品に関するお問い合わせもしくは質問は、

Eメール (mrxsupport@gmail.com) で、小社までお問い合わせください。

万一、データの不備がございましたら、お手数ですが小社へご連絡ください。
送料小社負担にてお取替えいたします。

このデータ（Eブックコンテンツ）を権利者の許諾なく第三者に転売、配布、
貸与すること、その他第三者に使用を許諾することはできません。また、イン
ターネット上のネットワーク配信サイト等へ配布することを禁止します。
